

抄 録

結核専門雑誌

Beiträge zur Klinik der Tuberkulose, Bd. 80, H. 4, 1932.

肺結核ノ人工氣胸ニ當リ肺内換氣、基礎代謝及運動時代謝ニ就テ

J. Herms und I. Rüttgers: Ventilation, Grundumsatz und Arbeitsstoffwechsel bei Lungentuberkulose mit künstlichem Pneumothorax.

肺結核患者ニ人工氣胸ヲ施行スルニ當リテハ呼吸、血流及新陳代謝等ノ關係ニ就キ考慮スル必要ガアル。之ニ就テ著者等ノ實驗セシ結果ヲ約言スレバ、

1. 肺活量ハ殊ニ新鮮ナル人工氣胸ニ於テ減少スル。残留空氣ノ状態ハ一定セズ。
2. Ventilationsäquivalent ハ氣胸後ニハ増加シ長時間後正常ニ復ス。
3. 基礎代謝ハ新鮮ナル氣胸ニ於テハ大體變化無シ。長時氣胸ヲ繼續スレバ先ニ高カツタ基礎代謝ハ正常ニ復ス。文獻ニ見ル如キ呼吸商ノ一定ノ變化ハ證明出來ス。實驗結果ニヨリ考フルニ肺結核ニ於ケル基礎代謝ノ増加ハ酸素供給ノ不足ニ由ルニアラズシテムシロ傳染病トシテノ結核症ニ由ルモノナル。基礎代謝ニ及ボス肺活量ノ影響ハ認メラレナイ。氣胸後ニ於ケル Ergometrische Untersuchung ノ結果ハ次ノ如シ。

1. 運動後ニ於テハ酸素使用量減少ス。
2. Wirkungsgrad ハ改善サル。即以上ノ事ハ人工氣胸患者ノ肺内換氣ノ良好及「エチルギー」經濟ノ改善ヲ示スモノナル。
3. 恢復期間 (Erholungszeit) ノ延長ハ無イ。
4. 炭酸瓦斯排出ハ大體ニ於テ不良テナクムシロ屢々改善サル、モノナル。(中野抄)

一或ハ兩側偶發性氣胸ニ就テ

Stein und Boedecker: Über ein- und doppelseitigen Spontanpneumothorax.

偶發性氣胸ハ稀ナルモノテハナイ。又從來實際以上ニ危険ト思ハレ過ギテキタ傾キガアル。之ガ死因ニ就

テハ酸素缺乏、炭酸瓦斯過剰トイフコトヨリモ心臓衰弱ガ更ニ重大ナル關係ヲ有スルノナル。Ventilヲ通ジテ絶ヘズ肺ヨリ肋膜腔ヘ空氣ガ入り縦隔膜ト心臓ノ變位ヲ來シ從ツテ心筋障碍ガ起ルノナル。コノ胸腔ノ過壓ヲ除クコトガ極メテ必要ナル。著者等ハ此ノ目的ニ向ツテ Dauer-Kanüleノ使用ヲ推奨スル(圖示)。外ノ空氣ニヨル傳染ハ少ク施行ノ易效果的ナル理由ニヨリ一般醫家ニ普及シタイ次第ナル。(中野抄)

人工氣胸ニ於ケル縦隔膜ニ就テ

E. Hager und Fr. Langebeckmann: Das Mediastinum bei Künstlichem Pneumothorax.

人工氣胸ノ效果ト縦隔膜ノ状態トハ密接ナ關係ガアル。氣胸時ニ起ル縦隔膜ノ障碍ニハ種々ノ型ガアル。心臓ト共ニ縦隔膜全部ガ移動スル場合、又或ルーケ所ガ何レカノ例ニ膨隆スル場合、或ハ兩側ニ作用スル壓力ノ平衡ガ破レタル爲彈力ニ差ヲ生ジテ彎曲スル場合等ガアル。

縦隔膜全部ガ移動スル時ニ全然固定サレテキナイ時ト固定個所(主ニ上下ノ二個所)ヲ有スル時トアル。

縦隔膜ノ一部ガ膨隆スル場合即縦隔膜「ヘルニア」ニ於テハ人工氣胸ノ反側ニ起ルコトガ多ク、之ノ屢々來ル場所ハ上下ノ二個所ナル(前上部及後下部)。後下部ニ於テハ比較ノ少イ様ニ統計ニアラハレテ居ルガ是ハ心臓ノ陰影ニ蔽ハレテ見落スコトガ多イ。

縦隔膜ノ移動ニ於テハ胸内壓迫感、呼吸困難或ハ心悸亢進等ノ症状ガ來ル併シ間々自覺症狀ヲ伴ハナイコトモアルカラ注意ヲ要スル。診斷ニ當リ最モ重要ナルハ「レントゲン」検査ナル。案外高度ノ移動迄患者ハ堪ヘルコトガアル。濕性肋膜炎ニヨツテ縦隔膜ハ後下部ノ柔軟ナル場所ニ於テ健側ニ膨隆シ所謂 Grocco-Ranchfusssche Dreieckヲ作ルコトアルモ長時ノ後ニハ却ツテ縦隔膜ハ強固トナリ良結果ヲ得ルモノテ

アル。又人工氣胸ノ縦際隔膜ノ移動又ハ「ヘルニア」ガアツテ一時氣胸ノ效果ニ疑問ヲ抱ク様ナコトガアツテモ悲觀スルニハ及バナシ。空氣送入ノ間隔ヲ適當ニ延長スルコトニヨツテ其度ヲ減ジ、又度々氣胸ヲ繰リ返シテ行ク中ニハ縦隔膜ハ漸次其強固性ヲ増シテノ位置ニ還ルモノデアアル。

縦隔膜障碍ノ影響及人工氣胸ノ效果ヲ正シク批判センハ呼吸機能試験 (Atemfunktionsprüfung) ガ必要デアアル。

(中野抄)

氣胸ノ索狀癒着及之ガタメ擴張状態ニアル空洞ニ對スル「デアテルミー」效果ノ觀察

H. Wiercinski: Beobachtungen über die Wirkung von Diathermieströmen auf Strangförmige Pneumothoraxadhäsionen und die durch diese angespannt gehaltenen Kavernen.

Diathermie ハ高周波電流ヲツテ兩導子間ノ物質ヲ平等ニ加熱スル。從ツテ導子小ナル時ハソノ加熱ノ度大ナルモノデアアル。導子小ニシテ加熱大ナル時ハ組織ニ凝固、火傷、切斷ノ現象ガ起ル。此ノ理ヲ應用シテ著者ハ掲題ノ如キ場合 3 例ニ Diathermie 治療ヲ施シ良結果ヲ得タ。今コノ療法ノ效果ヲ約言スレバ、

1. 索狀癒着ハ萎縮弛開スル。
2. 索狀癒着ノタメニ擴張状態ニアル氣胸ノ空洞ハ萎縮治癒スル。
3. 索狀癒着ハ效果的ニ行ハレタル場合ハ切斷サルコトガアル。シカシコレハ稀レデアアル。組織ガ凝固スルトイフヨリムシロ癒着組織ノ癒着ガ引キ裂ケルノデアアル。眞ニ凝固ノタメニ切斷セラル、様ナ電流ガ通ズル時ハムシロ導子ニ接スル皮膚ガ火傷ヲ起スノデアアル(尤之モ注意ニヨツテ避ケ得ル)。Diathermie 療法ハ癒着ノ胸腔内切斷法ヨリハ稍々時間ヲ要スルモシカシヨリ以上ニ效果的デアアル。(中野抄)

結核菌浮游液ノ菌數決定ニ就テノ經驗

O. Kirchner und B. D. Li: Erfahrungen mit der Bestimmung der Keimzahl in Tuberkelbacillenaufschwemmungen.

從來ハ菌量ヲ測ルニ菌數ニヨラズシテ菌浮游液ノ重量ニヨツテヲツク。健者又ハ結核患者血清ノ結核菌ニ對スル殺菌力ノ測定トカ又ハ極少量ノ結核菌ヲ血液ニ加ヘコノ血液ノ中ヨリ再び結核菌ヲ培養スルトイフガ如キ精密ヲ要スル實驗ニ於テハ菌浮游液重量

ニヨラズシテ菌數決定ニヨル方法ヲ用フル方ガ望マシイノデアアル。

從來ハ固形培養基ノ表面ニ生ヘタ菌 (Oberflächenkultur) ヨリ浮游液ヲ作ツタ。液狀培養基デノ培養ハ出來ナイコトハナイガ結果ガ不確實トサレテラツタ。シカシ著者等ノ特ニ工夫シタ適當ナル Nährflüssigkeitニヨル Tiefenkultur テハ非常ニ確實ナル結果ヲ得タ即コノ Tiefenkultur ヨリ浮游液ヲ作り (Aufschwemmungsflüssigkeit トシテハ一部ハ NaCl-Lösung 一部ハ弱「アルカリ」性ノ Tranbenzuckerglycerin-Lösung ヲ用ヒタ) 之ヲ種々ナル濃度及量ニ於テ Lubenan-Hohnノ培養基ニ植エテ見タ。浮游液ノ一定容積ト菌數トノ關係ヲ知ル爲ニ一定稀釋度ノ浮游液 0.02ccm ヲトリ之ヲ載物「ガラス」上ニ平等ニ塗抹シテ染色標本ヲ作り菌數ヲ計算シタ。コノ際計算室 (Zählkammer) ヲ用ヒテ從來多クノ實驗ガナサレタガ著者等ノ經驗ニヨレバ正確ニ抗酸菌丈ケラ數ヘル點ニ於テコノ塗抹標本ニヨル方有利ト考ヘラレル。又浮游液ヲ作ル際ハ乳鉢ニテ磨ル法ニヨラズ硝子球ヲ用ヒテ培養管ノ中テ震盪シツ、Aufschwemmungsflüssigkeit ヲ加ヘ後之ヲ濾過シタ。カクシテ作レル結核菌浮游液ヲ Lubenan-Hohnノ培養基ニ移シ之ニ生セル Kolonie ノ數ト浮游液中ノ菌數トヲ比較スルコトニヨツテ浮游液中ノ生活菌ノ%ヲ知ルコトガ出來ル。而シテコノ%ハ移植サレタ浮游液中ノ菌數少キ程大デアアル。要之、最初 Br. Langeニヨツテ提唱サレタ結核菌ノ卵培養基移植ニヨル生活菌數ノ決定法ハ著者等ノ實驗ニヨレバ確實ナルモノト思ハレル。而シテ結果ノ確實ヲ期スル爲ニハ多數ノ培養列ニヨツテ實驗スベキデアアル。(中野抄)

血液ヨリスル結核菌培養條件ノ研究

O. Kirchner und B. D. Li: Untersuchungen über die Bedingungen der Züchtung von Tuberkelbacillen aus Blut.

流血ヨリ結核菌ヲ檢出スル場合ニ此ノ出現ノ模様及成績ト經過トノ關係ニツイテハ多クノ人ガ努力研究シテアルガ其成績ハマチマチデアアル。

結核及非結核者ノ血清及血漿中ニハ殺菌力ガ無イト云ハレテアルガ最近ノ研究ニヨレバ更ニ之ヲ擴メテ血液全體トシテ試験管内テハ發育阻止作用ヲアラハサナイトイフコトニナツタ。但結核菌ハ其儘ノ或ハ稍薄メラレタ程度ノ血清中ニ増殖スル時ハ形態學的ニ相當程度ノ變化ヲ受ケルトイフコトハ考ヘテバナラ

ス。

卵培養基ヲハ 1ccm 血液中ニ菌數 100 アル場合ニ直接血液ヨリ培養出來ル。Tiefen Kultur テハ 1ccm 血液中ニ只 1 箇ノ結核菌アレバ可能ナル。又結核菌ハ白血球ノ層ニヨク増殖スル。Platten Kultur ハ一番優秀テハアルガ之ハ更ニ根本的研究ヲ要スル法ナル。Löwenstein ノ結果ト他ノ多クノ研究者ノ意見トノ相違ハ流血中ノ結核菌ノ培養性ノ變化ノ點ニアルノテハ無カラウカト思フ(大膽ナ假定ナルガ)。即 Löwenstein ノ法ハコノ培養性ノ變化セル菌ヲ普通ノ培養性ニマテモドスノテハ無カラウカ。結核動物ノ心臓血中テハ結核菌檢出ノ % 大ナルノハコノ中ノ結核菌ハ正常ノ培養性ヲ持ツテアルタメデアラウ。多量ノ血液ヲ一時ニ心臓ヨリ採ルカ又ハ手術ニヨツテ動脈血又ハ多量ノ血液ヲ採取スル際ハ多分結核菌ノ一部ハ採血ノ時ニ初メテ組織中ヨリ流血中ニ入り從ツテ未ダ培養性ノ變化ヲ有シテキナイ爲デアラウ。即カハル採血ニヨル場合ハ 1ccm ノ血液ヲ事足りルノナル。(中野抄)

骨結核症血液ヨリ Löwenstein 法ニヨル結核菌培養法ニ就テ

Alvaro Urgoiti: Über die Züchtung der Tuberkelbacillen aus dem Blute nach Löwenstein bei Knochentuberkulose.

骨結核症ニ於テ血行ニヨル感染が屢々アリ而モ感染原タル病菌ハ非常ニ小ナルコトが多い。此ノ關係ヲ究メル爲メ著者ハ Löwenstein 法ニヨツテ血液培養ヲ行ツタ、種々ノ他ノ疾患ニ就テモ検査シタガ其内骨結核症ニ就テハ 67 例ノ内陽性 26 例陰性 41 例デアツタ。進行セル例ニ於テハ陽性率高イ。(中野抄)

血液ヨリノ結核菌培養法ノ研究

K. Harmjan und Thea Kortmann: Untersuchungen über die Züchtung von Tuberkelbacillen aus dem Blut.

臨牀觀察及病理解剖學的検査ハ粟粒結核ノミナラズ慢性肺結核ニ於テモ其經過中ニ結核菌ガ血流中ニ入り體內ニ潛行スルモノナルトイフコト起サセル。若シコノ血流中ヘノ移行ガ結核菌検査ニヨツテ確メラル、ナラバ之ハ臨牀醫學ニ取ツテ大ナル進歩ナル。著者等ハ Hohnノ培養基ヲ用ヒ種々工夫シテ培養操作ヲ行ツテ見タガ成績何レモ不良デアツタ。試験管培養ニ於テハ血清ハ孵卵器ニ置ケバ結核菌ノ檢出可能ナル

ル様ニ思ハレル。Hohnノ培養基ヨリ Löwensteinノ方カ或ハ好成绩ヲ得シカト思ヒ嚴格ニ氏ノ方法ニ從ツテ検査シテ見タ。Löwensteinハ輕症結核患者ヤ「ロイマチスムス」ニ至ル迄陽性デアツタガ著者等ガ此方法ニヨリ實驗セル結果ハ全部陰性デアツタ。(中野抄)

「ツベルクリン」問題ノ研究。第 13 回報告

Tuberkulin-Läppchenprobe 及 Tuberkulin 皮膚反應ニ對スル Thyroxin ノ影響ニ就テ Studien zum Tuberkulinproblem. XIII Mitteilung. A. V. v. Frisch und F. Nagel: Über die Tuberkulinläppchenprobe und den Einfluss des Thyroxins auf die Tuberkulinhautreaktion.

Nathan 及 Kallos ハ皮膚結核患者ノ皮膚ノ「ツベルクリン」反應ヲ検査スルニ皮膚科ニテ用フル Läppchenprobe ヲ行ヒ「ツベルクリン」ニ對スル皮膚ノ過敏症ノ證明ニ成功シタト報告シテラル。吾人ノ見ル所テハ兩氏ノ選ンダ皮膚結核患者テノ反應ハ皮膚結核ナルガ爲テナク「アレルギー」高度ノタメニ過敏症ガ現レタノデアラウ。即之ハ質的ノ差テナク量的ノ差ナル。Lucacer ハ「ツベルクリン」丈クヨリモ Thyroxin-tuberkulin ノ方カ皮膚反應ハ強ク出ルト云ツテラル。シカシ吾人ノ經驗ハ Lucacer ト反對ノ結果ヲ得タ。カハル機械的因子ノ影響ハ皮内ニ用ヒル時ハ無イ。Kallos 及 Müller ハコノ皮膚反應ノ高度ナル原因ヲ Thyroxin ノ溶媒タル n/100 KOH ノ表皮軟化作用ニ歸シテラル。著者等モ亦 Kallos 及 Müller ノ意見ニ贊シ Lucacer ノ意見ニ反對スルモノナル。然レドモ「ツベルクリン」反應ニ對スル甲状腺ノ影響ヲ否定スルモノデハナイ。ムシロ甲状腺物質過剰症ニ於テハ「ツベルクリン」ニ對スル Allergie ハ著明ニ高度トナルモノナル。コレニ關シテハ日下研究中ナルガ追ツテ發表スルコト、スル。(中野抄)

結核問題ニ於ケル動物實驗

Kornél Preisich: Tierexperimente zum Tuberkulose problem.

結核菌ハ結核症ノ確實ナル原因ナルガ之ニヨツテ直接ニ病狀ヲ現出スルモノテハナクコノ分解産物ニヨツテ病的症狀ヲ起コスナル。コノ觀念ニ基イテ結核感染無クシテ症狀發現ヲ來ス因子ノ作用ヲ探究シテ見タ。結核菌ヲ木製ノ「カプセル」ニ入レ之ヲ試驗動物ノ腹腔ニ縫ヒ込メタ。之ハ感染ナシニ生活體中テノヨキ結核菌培養法ナルト思フ。之ノ實驗ノ結果

ハ次ノ如シ。

結核菌ハ濾過器ヲ通ジテ感染ヲ惹起サセル様ナコトハ無イ。長イ間ニ漸次結核菌ハ生活力ヲ失フ。「カプセル」ヲ插入シタ動物ノ血清ハ結核「アンチゲン」ニ對シテ補體結合能力高マル。抗結核性能力ヲ得ルヤウニモ見エル。長時日「カプセル」ヲ入レテ置イタ動物ハ結核ニ感染セズシテ而モ「ツベルクリン」過敏性ヲ得ル。

(中野抄)

小兒期慢性粟粒結核症ノ經過補遺

Heinrich Rennebaum: Beitrag zur Verlauf der Chronischen Miliartuberkulose im Kindesalter.

粟粒結核ノ發生及經過ハ非常ニ複雑テマダヨク判ツテキナイ事ガ多イ。粟粒結核ノ後ニ屢々氣管枝擴張症ヲ遺ス。又兩者別々ニ來ルコトモアル。コノ兩者ノ鑑別仲々困難ナコトモアル。シカシ結核症ノ上ニ氣管枝擴張症ガ來ル様ナ場合必ズシモ兩者嚴重ニ區別スルヲ要シナイ。又粟粒結核症ト百日咳トノ鑑別モ重要ナル。又偽粟粒性病竈ノ陰影ニモ注意ヲ要スル。著者ハ鑑別診斷ノ困難ナリシ小兒ノ播種性粟粒結核症ノ例ヲ擧ゲテ之ヲ説明シテキル。

(中野抄)

肺結核症ニ於ケル出血性素因及咯血ニ關スル研究

Emanuel E-senfeld: Untersuchungen über Blutungs-bereitschaft und Haemoptoe bei Lungentuberkulose. 肺結核症ニ於テハ肺ノ病變ニヨル咯血ノ外ニ先天性及後天性ノ出血性素因ニヨル咯血ガ來ルコトガアル。著者ハ自分ノ抜ツタ咯血ノ症例ヲ調査シタル所大部分ハ肺ノ變化ニヨルモノデアツタガ少數ハ確カニ出血性素因ノ高マツタルニ原因シテキル例ガアツタ。

(中野抄)

横隔膜神經捻除術後ノ胃ノ變形及變位ニ就テ

H. Lichtenstein: Form und Lageveränderungen des Magens nach Phrenicuseuairrese.

横隔膜神經捻除術ノ後ニ屢々機能障礙ヲ伴ハズシテ胃ノ變形又ハ變位ガ來ル。左側ノ横隔膜痙攣ニ於テハ胃ノ左方移動或ハKaskaden形成ヲ伴フ縦位トナル。右方ノ捻除術後ニ於テハ胃ハ全く横位ヲ取り幽門部ハ上ニ胃全體ハ右方ニ移動ス。又呼吸相ニヨツテハ

Angelhaken 形又ハ Stierhorn 形トナル。カク變形變位アリテモ機能的障礙ハ無ク又横隔膜神經捻除術ノ禁忌症トナルノデモナイ。

(中野抄)

腸間膜淋巴腺結核症及ソノ合併症、急性蟲様突起炎及輸膽管壓迫ニ就テ

Heinrich Neuer: Zur Mesenterialdrüsentuberkulose und ihren Komplikationen: Appendicitis acuta und Choledochus-Kompression

腸間膜淋巴腺結核症ハ今日ニ就テハ限局性ノ疾患トサレテアルガ時々種々ナル胃腸症狀コトニ廻盲部ノ劇痛ヲ以ツテ急性ニ起リ蟲様突起炎ヲ思ハスルコトガアル。而モ亦場合ニヨツテハ眞ノ急性蟲様突起炎ガ腸間膜淋巴腺結核ノアル上ニ起ルコトガアル。診斷ニ十分注意ヲ要ス。又腸間膜淋巴腺ガ輸膽管ヲ壓迫シテ膽汁ノ鬱積ヲ來シ膽嚢ニ大腸菌上行シテ膽嚢炎ヲ起スコトモアル。著者ハ文獻竝ニ自分ノ症例ヲ擧ゲテ説明シテアル。

(中野抄)

消化管ノ「レントゲン」検査ニ當リ偶然發見サル肺臟所見

Ernst Koppenstein: Zufällige Lungenbefunde bei der Röntgenuntersuchung des Verdauungstraktes.

著者ハ腹部症狀ヲ訴フル患者 2000 例ノ「レントゲン」所見ヲ調査セルニ 138 例(7%)ニ石灰化セザル實質性肺病變アリ、9 例(0.45%)ニ於テハ空洞ガ證明サレタ。之ニヨツテ腹部障礙ノ患者ニ於テモ腹部臟器ノ外ニ更ニ肺ノ「レントゲン」診斷ヲモ必要トスルモノデアアル。

(中野抄)

「各方面殊ニ肺疾患ノ虚脱手術ニ使用スル新手術臺」追加

Theodor Viegner: Nachtrag zu „Neuer Operationstisch für alle Zwecke, besonders für Kollapsoperationen bei Lungenerkrankungen.“

Bd. 78, H. 5. ニ於テ自分ハ掲題ノ如キ新手術臺ヲ提供シタ。今回更ニ構造ニ就テ研究シタ結果横臥裝置ヲ變更シテ胸廓成形術及其他一側ノ胸廓手術ニ適スル様ニシタ。尙序ニ從來ノ多少ノ美觀上ノ缺點モ除イタ。全體ノ形トシテ用途ハ一層廣クナツタコト、思フ。

(中野抄)

Zeitschrift für Tuberkulose Bd. 64, H. 5, 1931.

肺臟外科ノ十九年間ノ「パラフィン」充填

Gustav Baer: Neunzehn Jahre Paraffinplombe in

der Lungenchirurgie.

著者ハ一次的「パラフィン」充填及ビ二次的ニ肋骨切除術後ト横隔膜神経捻除術ニ肋骨切除術ヲ成シタ後ニ「パラフィン」ヲ充填シタ數例ニ就イテ報告ヲナシテ居ル。「パラフィン」充填ノ原理ハ初メノ充填ハ肺臓ニ限ギラレタ結核病竈ニ直接實驗シ、ソノ目的ノ最後ノ主旨ニタドルマデニハ其ノ方法ニ就イテハ澤山アツタト。ソレハ Harmus Grof, Frangenheim, Ulrici 等ノ方法テアル、「パラフィン」充填ハ危険ガ伴フト云フ事ガ認メラレテモ嚴密ナ適應ニ際シテハ根據ヲ有スルモノテアル。肺結核ノ中心の治療ハソノ方法ノ發達ガ示セル如ク肺結核ノ外科ヲ完全ナラシムト述ベテイル。(川上抄)

小兒ト青年期ノ開放性肺結核症ノ問題ニ於ケル報告

Paul Beeh: Beitrag zur Frage der Offenen Lungentuberkulose der Kinder und Tugendlich.

小兒ト青年期ノ慢性開放性肺結核症ニハ繼續の保護ガ必要デアルト思フトソノ保護ニハ小サナ設備ヲ足ルトソシテ患者ノ發育及ビ治療ニ努力シ、小兒ヲ健康状態ニサセルヤ否ヤ彼等ノ發育ハ部分的ニ一ツノ職業ヲサセ生活出來ル準備ヲナス、若シ良好トナリ。亦治療ガ出來タナラバ出來ルダケ Heilstät ニテ保護の方法ニヨリ再ビ働ケル習慣ヲナサシメル様ニスベキダト治療ノ結果ニ關シテハ云フマデモナク永續の療法ニ際シ、特ニ勿論輕症ノ場合ニハ保守の療法ハ注目ニ價値ノアル結果トシテ(12%)ガ示サレテキルト。空洞ガ存在スルトキハ少シノ例外ニテ治癒スルモノト思ハレルノガアルト、人工氣胸療法ニテソノ治療患者ノ約 $\frac{1}{3}$ ヲ助ケル事ガ出來得タト尙横隔膜神経捻除術ハ我々ハ虚脱方法ト追加の手術トシテヨク選バレタト、肋骨切除術ト充填ハ我々ハ例ガ少ナイノテ意見ヲ得ル事ガ出來ナイト述ベテ居ル。(川上抄)

一般的多發硬化性結核大細胞增生ニ就キテ

Ernst Freund: Überuniverselle Sklerosierende tuberkulöse grosszellige Hyperplasie (Mylius-Schürmann) 全テノ臓器ニ分布サレル亦特ニ肺臓ト淋巴腺ニヨリ第二ニ皮膚、眼、ソシテ骨疾患ニヨリ現ハレル所ノ良性血行性ノ一般結核ガ稀ニ見ラレル。

コレノ特色ハ「ツベルクリン」反應陰性ノ場合ト硬化性素因ヲ有スル大細胞上皮細胞結核ソシテ壞疽ト石灰沈著ノナキ事デアル。コレヲ Schürmann mylius ノ

一般的多發硬化性結核大細胞增生ト名付ケテキルト。Boek ノ類肉腫ト凍瘡狼瘡、多發性囊狀骨結核ハコノ病形ニ屬ス。淋巴腺ノ腫膨ガ極端ノ度ニ出來ル肺疾患ハ「レントゲン」ニテ一般ニ粟粒結核ノ陰影ヲ示ス。臨牀的ト「レントゲン」ノ所見ハ十中八九ハ肺臓ニテ所謂 Lymphangitis reticularis ガ現ハレル。

著者ガコノ章ニテ述ベタニツノ「定型的」場合ノ疾患ハ多年繼續シ十分治癒シテ居ルガ一般肺結核ヲ屢々持ツテキル故後ハ惡クナリ將來ハ慢性粟粒結核ニ移行スルコノ結核疾患ノ形ノムシロ不明ナル原因ハノ種類ヲ尋テルヨリ各自ノ素因ニアル「レントゲン」ヲ進行性惡性肺所見ヲ有スル永イ間ニ良性ノ經過ヲ取ル場合ガ臨牀的ニヨリ似テキルノガアルガ此ノトキノ肺結核ト診斷ヲ下ス事ガ問題デアルト述ベテ居ル。(川上抄)

肺結核ノ臨牀的治療の分類

Virus H. Ulrici, R. Roeder: Klinisch-für sorgensche Einteilung.

Ulrici ハ今日ニ於テ Turban-Gerhardt ノ最初ノ臨牀的確實ノ肺變化ノ分類ヲ應用シテ 40 年前ノ Turban, Gelhardt ノ量的病竈診斷ニ對シ基礎的ニ物理的診斷方法ノ改良ト利用トヲナシ臨牀的理解ト療法ノ適應ヲ見ツケ出シタトソシテ Turban-Gelhardt ノ分類ハ古クシテカノ新シキ生命ヲ起サス實驗ハ研究の今日ノ立場ニ於テハ合法的デハナイ實地目的ノ肺結核ノ分類ハ診斷の知識カラ確實ニ立テラレル事ガ起リ先ヅ批判ノコノ目的ハ討論セラレ、ソノ目的ハベルリン國立保險局代表ノ醫師ガ關係シ結核病院ト結核治療所ニテ行ハレタ。ソコテ一般仕事ニ從事セルベルリン市ノ結核醫師ノ考ヘテ參考トシカノ編輯ニ委員ヲ置イタト述ベコノ分類ハ單ニ實地目的ニ盡サレテ居リ治療及ビ臨牀ニハ必要デアル。ソレハ特ニ實質のデハナイガ凡ソ病的意義ニ基礎ヲ置キ、コノ分類ノ主要ナルコトハ活動性ノ肺結核ヲ握ツテイルトソシテコノ分類ハベルリン市ノ 20 ノ治療所ト 4 ヶ所ノ結核病院ニ於テ實施ヲシテキルト述ベテキル、次ノ如ク分類ヲナシテキル。

I. Tuberkulöse Infection bei Kindern Ohne Erkrankung

1. (1) Tuberkulin-positiv Kinder ohne nachweisbare Herde
2. (2) Tuberkulin-positiv Kinder nur mit ver

Kalkten Herden

II. Aktive Lungentuberkulose Ohne Tuberkelbazillenbefund.

1. Aktiv Formen.

- a. (3) Positive Tuberkulinreaktion bei Säuglingen
 - b. (4) Infiltrierungen bei Kindern.
 - c. (5) Tumorartige Bronchialdrüsentuberkulose bei Kindern
 - d. (6) Isolierte pleuritis exsudativa
 - e. (7) Akute miliare Streuung
 - f. (8) Akute geschlossene Miliartuberkulose
 - g. (9) Akutes Infiltrat ohne Einschmelzung
2. Chronische Formen
- a. (10) Stationäres Infiltrat
 - b. (11) Chronische Miliare Streuung
 - c. (12) Produktive Tuberkulose
 - d. (13) Produktive-zirrhatische Tuberkulose

III. Aktive Lungentuberkulose mit Tuberkelbazillenbefund

1. Akute Formen.

- a. (14) Akute Offene miliartuberkulose
- b. (15) Akutes einschmelzendes Infiltrat ohne Streuung
- c. (16) Akritis einschmelzendes Infiltrat mit Streuung

2. Chronische Formen.

- a. (18) Produktive Tuberkulose
- b. (19) Produktiv-Zirrhatische Tuberkulose
- c. (20) Produktiv-Zirrhatische Tuberkulose mit exsudativer Herdbildung
- d. (21) Schwere Kavernöse Phthise

IV. Inaktive Tuberkulose

- (22) Z. B. abgeheilte primärkomplex, Spitzennarben, Simonscheidir puhlische Herde, abgeheilte Tuberkulose durthorakalen Lymphknoten, pleuraschwarten, disseminierte Kalkherde, Schwierige Infiltratrest usw.

次ニ Roeder 氏ハ治療ノ行政ノ立脚點カラ考ヘテ詳細ナ述ベラレテキル。

(川上抄)

1931年 Bd. 59. H. 5 ノ結核雜誌ノ Bruno

Lange 文章ノ評言ニ就キテ

R. Kraus: Bemerkungen zu Bruno Langes Artikel

in der Zeitschrift für Tuberkulose Bd. 59, 1931. Heft 5.

R. Kraus ハ Lange ノ詳論ニ就キテハ余ハ何モ附加ヲナサナイト述べ Lubeck ニ於ケル B.C.G 培養ノマチガヒハ明カニ Kill 株ト認メラレタ。余ガ Chile ニテ昨年成シタ B.C.G. 接種ハ一時中止サレタガ Calmett ハ Chile ノ爲メ幸福ヲ意味スルコトト信ズル、ソシテソノ上確實ニ今後自由ニ統計ガ現ハレル事ガ出來今日ノ B.C.G. ノ株ノ性質ハ前ノ立場トハ違ツテ居リ余ハ尙ソノ效果ハ十分デアリ、ソシテ余ニコノ事實ト精密ノ統計ガ反對ニ就イテ發表サレル事ガナキカギリコノ確信ト期待ガ考ヘラレルト、余ノ見タ所反對ニ對シテ話サレタ證明ヲ重大ニモセズ、今日 Chile ニ於テ多クノ人々ニ接種ガ續ケラレテキル、B.C.G. ノ論ノ終リニ於テ尙一度主張スト述べ、余ハコノ立場カラ B.C.G. Vactin ハ今日マテ無害デアルト思フ。タダ pastur ノ保證ニヨリ影響ガ大ナルモノデアルト述べテキル。

(川上抄)

油胸療法ノ寄與

Walter Göbel: Beitrag zur Oleothoraxbehandlung
余ノ考ヘハ今日ニ於テ人工氣胸ニ變リ油胸療法ガ大ナル考慮ナク認メラレタ 適應症デアル事ガ確實ト成ツタト述べ、臨牀的ニハ人工氣胸ノ始メノ肥厚ハ空氣ノ吸收ノ少ナキコトニヨルノテコノ場合ニ於テ人工氣胸ノ變リニ油胸療法ハ肺臟ヲ虚脱スルコトガ出來壓縮出來ル油充ハ吸收ガ少ナイ爲メソノ量ハ壓縮セラレタ瓦斯充填トハ反對ニ不變ニ保タレテキル Ölノ吸收ハ瓦斯吸收ヨリ大變遅クソレ故ニ度ノ充填ノ期間ハ大變永ク出來ル、滲出液ニヨリ荒サレテキル肥厚ノアル場合人工氣胸ヲ慾望スルトキハ油胸療法ヲ用意スルコノ條件ハ效果的ニ虚脱ガ出來油胸療法ハ人工氣胸ニテ壓萎出來ナイ所ノ空洞ヲ壓スル爲メニ少ナクトモ小兒ヤ青年ニハ成スベキダトソシテソノ Öl ハ 2.5% Jodipinöl ヲ用フト。

Löwenstein ノ血液ヨリ結核菌培養ニ就キテ

Paul Kallos: Über die Zuchtung der Tuberkulosebazillen aus dem Blute nach Löwenstein.

Löwenstein ノ研究ニヨリ 50—80%ガ結核血液カラ結核菌ヲ培養スルノ一成功ヲナシコレマテ争ハレテキタ桿菌血(結核ノ)問題ガ解決ニ近ヅイテキルト述べ Löwenstein ノ純眞性結核ノミナラズ尙他ノ疾患ノ際ノ培養ニモ成功ヲナシテ居ル。結核發生ハ細菌

學的ニハ今迄十分ナ證明ガナク余ハ皮膚結核ト類結核腫ノ結核桿菌血ヲ研究ガ原因トナツテコ、ニテ報告ヲナスト述ベソノ方法トシテ Löwenstein 氏法ヲ擧ゲ著者ハ二法(Löwenstein)ヲ實驗ヲナシ三法ハコノ研究後ニ發表ヲスルコト、シコ、デハ實驗ハシナイト、

ソシテ Löwenstein ノ結核培養方法ノ價值ハ人工的患染血液ト結核患染セシメタ「モルモット」ノ血液ヲ證明シ、認メタト皮膚結核ト類結核腫 34 例ヲ二法ニテ實驗シテキル。
(川上抄)

The American Review of Tuberculosis Vol. XXVII. No. 2. February, 1933.

結核知見ノ最近ノ進歩

J. Arthur Myers: Recent Development in Our Knowledge of Tuberculosis.

Villemin が 1868 ニ結核ハ移植シ得ルモノナルコトヲ公表シタノガ機縁トナツテノ結核菌發見トナリ、次テ之カ治療及豫防ノ目的ヲ以テ tuberculin が世ニ出ヅル様ニナツタ。現今ハ tuberculin ハ最も特異的ナ診断劑トシテ大ニ貢獻シテ居ル。之ヲ皮下、皮内、皮膚面ニ接種シテ結核ノ感染ヲ調査スルニ大ニ便益トナツテ來タ。一體對結核戰ハ恰モ太古來斧ヲ加ヘザルノ地ヲ開墾スルガ如キモノテ大森林ガ現今ノ蔓延シタル結核地ト見テ尙其中ニ湖水ヤ大河ノアル所ニ樹木ヲ見ナイト同様ニ地方ニヨリ結核ノナイ所ガアル。對結核戰ニヨリ少シ宛之ヲ切り開イテ遂ニハ結核感染地ガ散在的ニシカ見ラレナイノハ恰モ開墾シタル田畑ノ間ニ森ガ點在スル如クナリ。更ニ之ヲ拓ケバ遂ニハ一木ヲモ見ザル大原野トナスト同様ニ無結核地ヲ作ル事ハ敢テ難事デハナイ。Minnesota ノアル都市ニハ 160 人ノ男女學童中 tuberculin 陽性者ハ唯 1 人シカナイト云フノガ Broker ノ報ズルトコロダ。Mc Cain ニヨレバ North Carolina テハ陽性者ハ 4 %ニ過ギナイト云フ。反之 Philadelphia テハ 18 才ニナルト 9.02 %ノ陽性反應者ヲ見ルト云フ。

Chadwick and Zacks ニヨレバ Massachusetts テハ一部ニハ 9 %ノ陽性兒童ガアリ他部ニハ 11 %シカナイト云フ。Rathbun ニヨレバ New York ノ Chautauqua 郡ノ小都市ニハ 25 %最大ノ都市デモ 41 %シカ陽性兒童ハナイ。Slater ニヨレバ Minnesota 西南地ニハ約 10 %シカ陽性者ハナイ。University of Minnesota ノ新入生ニハ陽性者ハ 33 %、University of Pennsylvania ノハ 49 %、University of Wisconsin ノハ 30 %シカナイ。1933 年ノ National Tuberculosis Association ノ Slogan ハ “Tuberculosis Causes Tuberculosis-Every Case Comes From Another.”

テアル。現今ノ目標ハ結核菌ノ撒布者ハテキルダケ之ヲ隔離シ人工氣胸ヲ施術シテ菌ヲ撒布スル事ヲ防ギ、テキルダケ早期ニ患者ヲ發見スルタメニ兒童ノ tuberculin 反應陽性者全部ノ X 線寫眞ヲ撮リ之ヲ徹底ニ治療スルニアル。
(寺尾抄)

小實驗動物ノ肺ノ X 線寫眞撮影

Sidney Greenberg, Pulmonary Roentgenography of Small Experimental Animals.

家兔、天竺鼠、鼠等ノ X 線寫眞ハ横隔膜ガ高過ギル事ヤ縱隔竇ガ廣過ギテ肺野ガ狭ク又肩胛骨ガ肺野ヲ掩フタメニ肺ノ病竈ヲ撮ル事ガ困難ダガ次ノ如クセバ十分ニ目的ヲ達スル事ガテキル。動物ヲ特殊ノ L 形ノ撮影板ノ垂直板ニ垂直位ニ支ヘテ横隔膜ヲ下ケレバ縱隔竇モ狭メラレテ肺野ヲ透視シ得ル。更ニ肩胛骨ヲ側方ヘ曳ク時ハ肺野ト重ナラナイ。之ヲナスニハ前肢ヲ頭ノ高サテ交叉セシメル。背腹(postero-anterior)ノ位置テ劍狀突起ノスゲ下ノ上腹部ヲ深く壓セバ胸骨ト脊柱トヲ整列セシメ得ル。更ニ鼻孔ヲ次第ニ閉スト呼吸ハ深緩トナリ呼吸數ヲ減ルガ故ニ深吸氣時ニ線ヲ出ス事トスル。tube ハ家兔ナラバ 30 inches, 天竺鼠ナラバ 25 inches ノ距離トシ 30 Milliampere, 95—115 Volt(家兔ノ時)又ハ 90—190 Volt(天竺鼠ノ時)トシ兩動物トモ 1/20 秒ヲ撮ル。
(寺尾抄)

肺ノ實驗的限局結核

Robert G. Bloch, Localized Experimental Tuberculosis of the Lungs.

沃度化油(Lipiodol)中ニ結核菌ヲ浮遊セシメテ之ヲ氣管切開ノ上一定ノ肺内ニ注入セバ限局シタル結核竈ヲ作り得ル。Lipiodol ヲ使用スルハ X 線ヲ透視スルコトヲ得ルガ故テアル。之ノ方法ニヨルト virulent bacilli ヲ以テ限局シタル初期結核群ヲ起サシタルコトガテキル。生理的食鹽水ヲ以テ之ヲ代用シテモ肺全般ニ結核竈ヲ作り限局竈ヲ作ルコトガ出來ナイ。之ニヨリ晚發性二次的延蔓ヲ來ス緩徐ナ進行性病竈ヲ

實驗のニ行ハントスル目的ニモ適スルモノデアル。

(寺尾抄)

栓塞性結核性ト化膿性肺膿瘍ノ病理學的變化ノ比較。實驗的研究

Philip H. Pierson. A Comparison of the Pathological Changes in Embolic Tuberculous and Pyogenic Pulmonary Abscesses. An Experimental Study.

本實驗ハ犬ニ infected emboli ヲ以テ肺膿瘍ヲ起サシメタ列ノ試験デアル。結核列ハ結核菌 H 37 ヲ以テ化膿菌列ハ nonhaemolytic streptococci, Streptococcus aureus ト Bacterium coli ノ色々ナ組合ヲシテ栓塞ヲ起サシメタ。先ツ犬ヲ麻醉セシメ V. Jugularis ヲ出シソノ小部ヲ切り去リ一端ヲ絹テ結び他端カラ paraffin テ被包シタ鉛丸ト培養菌ヲ入レテ、ソノ端ヲ結ブ。コノ embolus ハ出シタ靜脈管ノ近端ニ入レテ傷口ヲ閉ヂル。鉛丸ハ X-線ヲ embolus ノ存在ヲ示シ像ヲ比較スルニ役立つタメダ。惜シイコトニハ本實驗テハ生體染色ヲシナカッタ事ダ。尙注意スベキハ最近 Sabin, Lewis, Carrel and Ebeling, Parker ナドノ報告ニヨレバ fibroblast, monocyte 及 macrophage (Clasmatocyte) 及 epithelioid cell ノ間ニアル類似ノアルコトダ。Fried ノ考テハ大單核細胞ハ alveolar epithelium カラ生ジ防禦及代謝作用ノ役ヲナスト云フ。實驗ノ結論ハ次ノ如クナル。

結核感染カラ發病ノ順序ハ明白テ規則的デアルガ化膿性感染ハ是等ガ不規則デアル。化膿性感染テハ組織中ニ膿球ガ多ク散在スル。大單核細胞ハ各列ニ見ルトコロテハ喰細胞ノ役ヲスル、核ヲ包ム原形質ハ時トシテハ不明瞭ダガ又原形質内ニ喰ハレタ物質ノ多クノ菌體部ヲ含シテ居ルノガアル。走細胞ト喰細胞トノ間ニ similarity ノアルノハ是等ノ起源ガ共通シテ居ルコトヲ考ヘシメル。遊大單核細胞ノ隨伴物トシテノ小圓形細胞ノ活動性ハ兩感染列共ニ明白ニ見ラレタ。膿瘍形成ハ規則的ニ化膿菌感染ニ早く起ルガ結核感染テハモット屢々起ツタノヲ見ラレ兩列共ニ何レモ肋膜肥厚ヲ見ラレタ。兩列共ニ通ジテ氣管枝炎及氣管枝周圍炎ガ著シク化膿性感染テハヨリ早期ニ結核列テハヨリ長ク存在シタ。纖維性變化 (fibrous proliferation) ニ對スル傾向ハ兩列ニ認メラレタガ結核列ノハモット著明デアツタ。

空洞壁ノ上皮化ハ化膿菌感染ヲ行ツテ 13 日目ニ見ラレタノガ 1 例アツタガコノ事ハ化膿性膿瘍ニ萎縮瘰

ヲ行ツテモ臨牀的ニハ屢々治癒シナイ事ノアレルギー要素デアラウ。

兩列共ニ完全治癒ヲ來タシタノガ數例アツタ。結核感染後 92 日目ノモノ、空洞ノ周圍ニ薄イ固イ壁ヲ作ツタノガアルガ之ハ胸部ノ X 線寫眞テ圓形翳ヲ起スノト同様ナル process ヲ呈スルモノデアラウ。

(寺尾抄)

腦ノ Tuberculoma 4 例報告

Ernst Scott and Grant O. Graves. Tuberculoma of the Brain with a Report of 4 Cases.

腦ノ孤在 tuberculoma ノ 4 例ヲ報告シタモノテ内 3 例ハ Cerebellum ニ在リ 1 例ハ pons ニ在ツタ。1790 年以來腦ノ tuberculoma ハ少クトモ 815 例報告サレテ居ル。凡テノ腦腫瘍ノ平均 2.5% ハ tuberculomata デアル。腦ノ tuberculomata ハ 10 年毎ノ報告ヲ分析シテ見ルト 1870—1920 間ニ減ジ 1920—1930 間ニ新ニ極大ヲ示シテ居ル。尙 646 例ヲ分析シテ見ルト腦ノ tuberculomata ハ 10 歳以前ノモノガ 49.5%。次ノ 10、20、30 歳臺テハ 9% ヲ示シテ居ル。又女ヨリモ男ガ 2 倍トナツテ居ル。之レノ起ル頻度ハ Cerebrum モ Cerebellum モ同數デアル。腦ノ石灰化 tuberculoma ハ極メテ稀デアツテ記録サレタ例ノ 0.01% ニ過ギナイ。

(寺尾抄)

所謂肋膜肺性 Endothelioma ノ 1 例報告

Andrew L. Banyai and John Grill. So called Pleuropulmonary Endothelioma. Report of A Case.

肺ノ一次性 endothelioma ハ極稀デアツテ多クハ肋膜ニ發シ二次的ニ肺ニ汎發性ニ來ルモノデアル。著者ハ 26 歳ノ婦人ヲ右肺結核兼膿胸ノ診斷ヲ受ケタ者ニ就テ報告シテ居ル。コノ婦人ノ發病ハ急性デアツタノヲ見ルト炎衝ヲ思ハシメルガ多クノ場合肺ノ惡性腫瘍ハ記載ニヨレバ急性ニ起リ疼痛及熱發ヲ伴フ。多クノ患者ハ流感又ハ肺ノ重篤ナ疾患後ニ來ルタメニ肺ニ疾患ノアル事ヲ自覺シテ居ル。之ハ氣管枝狹窄ヲ起シテ居ルタメダ。無菌ノ膿胸ヲ起スタメニ結核性ト誤ラレル。中年以後ノ idiopathic empyema ハ肋膜肺ノ惡性腫瘍ノ最初ノ發現デアル。本例ノ不規則ナ發熱ハ多分腫瘍部ヨリノ有毒物質又ハ二次的感染ニヨル無氣部又ハ無氣嚢ヨリノ毒素ノ吸收ニヨルノデアラウ。肺ノ惡性腫瘍患者ハ稀ニ tuberculin ニ反應シ又ハ多量ノ場合ニノミ反應スル。血球像ハ診斷ノ補助ニハナラナイ。貧血ハアツタリナカッタリダ。病勢

亢進ト貧血ノ度合トノ間ニハ一定ノ關係ガナイ。多核細胞增多ハ比較的ニ多イガ之モ毒素ニヨルモノテ二次的感染ノアルコト、ナイコト、アル。結核デモ neoplasma デモ赤洗反應ハ増加スル。胸部ノ大靜脈擴張ヲ來スノハ壓迫ニヨルモノテ腹部右側ノ靜脈ガ擴張スルノハ下行大靜脈ガ間接ニ影響スルカラデア。大氣管枝ガ壓迫サレルタメニ喘鳴ヲ起ス。轉移ハ右腋窩腺ノミニ來タ。X線寫眞、氣管枝鏡、肋膜腔鏡ハ診斷上大ナル助トナル。Sauerbruch ニヨレバ診斷ヲ確定セシメルタメニハ胸部切開ガ最モヨイ。之ハ危險デモナク又外科の手術ノ適當ナル機會ヲ失フコトモナイ最良法デア。 (寺尾抄)

胸廓成形術ノ心臟ニ及ボス影響

Olga S. Hansen and Henry W. Maly. The Effects of Thoracoplasty on the Heart.

57例ニ就テ胸廓成形ヲ行ツタ前後ニソノ electrocardiogram トX線寫眞トヲ検査シタ。手術シタ者21人(37%)ト手術シナイ者14人(46%)トハ electrocardiogram ニ變化ガナカツタ。22人(38%)ト8人(26%)ハ夫々輕微ノ變化ヲ示シ5人(8%)ト4人(13%)ハ稍々9人(15%)ト4人(13%)トハ QRS amplitude ニ著シイ變化ヲ示シタ。X線寫眞ニヨツテ見ルニ心臟位置ハ手術後12人(21%)ハ不變27人(47%)ハ微ニ6人(10%)ハ稍々10人(17%)ハ著シク2人(3%)ハ甚シク變化シタ。36例中12(33%)ハ electrocardiogram ハ變化シ度合ハ異ルガ心臟位置ハ同方向ニ移ツテ居ル。11例ハ electrocardiogram 及X線寫眞ハ一致セズ13例ハ未決定デアツタ。コノ検査列ノ示ストコロニヨレバ胸廓成形術ニヨル胸内ノ病的狀況ハ87%ニ於テ殆ソド變化セズ。心臟ノ移動ハ健側ニ起ル。手術

後ニハ electrocardiogram ハ輕微ナノヲ含メテ63%ノ變化ヲ示スガ此變化ハX線所見ト一致モセズ又豫言モテキナイ。X線像ニヨリ electrocardiogram ノ變化ヲ豫言シタリ逆ニ electrocardiogram ヲ見テX線所見ノ形ヲ言ヒ當テルコトモテキナイ。牀上安靜、血毒症、體重變化等ハ合同シテ electrocardiogram ノ形ニ影響スルコトハ有リ得ル。傳導道又ハ心筋損傷ノタメニ electrocardiogram ニ邪變ニナル事實ハナイ。剖檢ニヨルニ心臟ノ重サヤ心筋變性以外ニ異常ガナカツタ。QRS amplitude ノ少シ變化シテ居ルノハ多分血毒症ノタメニ reduction ヲ伴ツタ筋緊張ノ變化ヲ示スモノデアラウ。 (寺尾抄)

皮膚結核ノ食餌療法

S. Bommer. The Dietary Treatment of Skin Tuberculosis.

著者ハ1928年ニ Giessen Lupus Sanatorium テ多クノ皮膚結核ニ無鹽食餌療法ヲ試ミタ。Lupus vulgaris ヲ主トシテ臨牀觀察ヲナシタノデアアルガ皮膚ノ病竈ハ完全ニ治癒シタ。此觀察ニヨルト食餌ノ主要作用ハ血管壁細胞ニ影響スルモノデアツテ食餌ニヨリ其細胞ノ正常機能ヲ恢復スルモノデアアル。他ノ凡テノ治癒機構ハ炎衝愈ノ血管機能ノ恢復ニ歸着スルモノデアアル。即無鹽ニヨリ又ハ Vitamin 攝取ニヨリ血管壁細胞ノ作用ガ支持サレル。Keining 及 Hopf ハ普通鹽ヲ除ク事ヨリモ他ノ方法ニヨリ鹽調節ノ問題ヲ巧ク解決シタ。鹽ハ他ノ鹽類ヲ加ヘル事ニヨリ detoxicate サレテ無害トナルモノダ。生理的ニ平衡シタ鹽ヲ使用セバ lupus vulgaris ニモ亦良效果ヲ示スモノデア之ハ材料ヲ單純化シテ食餌療法ノ補助ヲナスモノデア。 (寺尾抄)

會報並雜報

○二月中新入會者

贊育會病院 東京市本所區太平町三ノ一九
國重 正敬 廣島縣衛生課保健相談所
片淵 秀雄 朝鮮開城少年刑務所
高田 六郎 吳市吳海軍工廠醫務部
成田 夫介 京城醫學專門學校附屬醫院內科教室

馬渡 一得 東京市大森區北千束町四九六
鎌倉 令三 高松市赤十字病院內科
千葉醫科大學 千葉市
第一內科醫局
野村 清 大阪市北區區分寺町三七
柴田純一郎 入幡市高見町七丁目